

森を育てる炭作り(5年)

○指導目標

- 文章の構成を考えて、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにする。
- 必要な情報を得るために、効果的な読み方をする。
- 文章の要旨や構成を考えながら、筆者の考え方を読み取る。

○学習材について

本学習材『森を育てる炭作り』は、森で炭作りをすることによって森を守り、環境保護・自然保護に大きな役割を果たしていることを意識させた説明的文章である。木を焼いて作る炭。炭を作ることは森を育てること。なぜなんだろう……と考えながら読んだり、考えながら書いたりして、楽しみながら学習することをねらっている。文章は、16の小段落からなり、大きく分けて、「炭の効用」「炭作りの意義と実際」「炭を海外協力に用いた事例」の3つの構成からなっている。

炭の効用——部屋を暖めたり、お湯を沸かししたり、魚を焼いたりする燃料としての炭はたらし。冷蔵庫の中の脱臭剤のはたらし。汚れを取り込むのはたらし。水槽や川などの水をきれいにするのはたらしなどが取り上げられている。

炭作りの意義と実際——環境を守る。雑木林や森などの木や枝を切って、薪や炭作り。下草を刈り、落ち葉を集めて田畑に使う肥料作り。木を切った切り株からの新しい芽が育つ。木々に対する光の当たり具合が調節される。必要以上の木を切ることをせず、何十年も先のことを考えて切り、切り株から出た芽は大切に育てられてきた。炭作りの仕事は、森を保全しながら続けられてきた。

炭を海外協力に用いた事例——インドネシアのトホ=イリル村の例では、焼き畑。炭焼き。炭を使って土を改良。このように、炭を作ることは、森と人間がともに生きていくことにもつながっていくのである。

炭のはたらしという事実を淡々と述べるなか、炭のもつ潜在的な力が説得力をもっていることを感じさせる学習材である。

昔から人間は、自然と共生しながら生きてきた。そういう事実に対する気づきを、子どもに優しく問いかけ、問題提起をしているのである。

また、本学習材は、長い文章でもあるので、全体の文章構成を一度に扱うのではなく、大段落ごとに構成をまとめていくなど、段階的な扱いをすることが望ましい。そのことが、文章全体に対する理解を深めると同時に、段落意識や文章構成に対する意識を高めることにつながっていくものと思われる。

指導にあたっては、筆者の考え方に対して、自分の感じ方や考え方を明確にしていきながら読み取らせていきたい。その活動そのものが、説明的文章の読むことを中心とした学習であり、文章構成に即して読むことや段落構成図を書くことができることにつながる。また、事実と意見の関係をおさえられたり、必要な情報を得るために、効果的な読み方をしたり、筆者の主張を理解し、自分なりの意見や考えをもてるようにもしたい。

第5学年で学習する「要点をまとめる力」や「要約する力」「筆者の意見に対し自分の考えをもつ力」を段階的に向上させるための言語活動を実践していく。

○ 学習指導計画 (全6時間)

展開・時	学習活動	留意点
第1時	○ 単元全体の学習内容をつかみ、学習計画を立てる。	○ 題名から、森や炭について知っていることを出し合う。 ・炭について調べさせる。 ・炭は、いつ、どこで、だれが、どのように使われているのか発表させる。 ・学習計画を立てさせる。
第2時	○ 段落構成を読み取る。 ・小段落……16 ・大段落……3 1～4段落 5～7段落 8～15段落 16段落 まとめ	○ 炭と森の関係について、文章構成に即して読み取る。 ・文章全体の段落構成をつかませる。 ・大段落3の構成については、読み取りながら理解させる。
第3時	○ 興味をもったことや不思議に思ったことなどをもとにして、炭作りによる自然と人間との共存の様子について読み取る。	○ 興味をもったことや、不思議に思ったことなどを箇条書きで書き出させる。 ・炭の効用(1～4段落) ・炭作りの意義と実際(5～7段落) ・炭を海外協力に用いた事例などを手がかりに読み取らせる。(8～15段落)
第4時	○ 炭作りが海外協力に発展した経緯を読み取る。	○ 各段落に小見出しをつけさせる。 ・技術協力が困難を克服して成り立っていることをつかませる。 ・村に起こった変化について話し合わせる。
第5時	○ まとめの部分を読み取る。 ○ 事実と意見の関係をおさえ、文章構成について話し合う。	○ 主張の中心は16段落にあることに気づかせる。 ○ 構成図の書き方は、これまでの説明的文章の学習を振り返らせ、ある程度提示していく。 ・段落単位で考えさせる。 ・筆者の主張について、ノートにまとめさせる。
第6時	○ 『森を育てる炭作り』について学習してきたことをまとめる。	○ 学習全体をとおして、各自の意見や考えをまとめて発表し合う。 ・テーマの近いものどうして集まり、発表の計画を立てさせる。 ・学習の定着を図るために、この学習でどのようなことがわかったか、各自まとめさせる。

○ 本時の展開(本時 3 / 6)

(1)目標

- 炭作りによる自然と人間との共存の様子について読み取ることができる。

(2)評価基準

- ア 必要な情報をすすんで読み取り、自分なりの方法でまとめようとする。(関心・意欲・態度)
- イ 題名、小見出し、本文、写真などを活用して、必要な情報を見つけだすことができる。

(3)展開

学習活動	学習内容	指導・援助と 評価の創意工夫
1 本時の学習課題の確認。 炭を作ることは、なぜ森を育てることなのだろう。	○ 学習の進め方	○ P9最終行の一行空きのはたらきに気づかせる。
2 学習課題を解決する。 ・音読 ・調べる ・小見出し	○ 炭作りの意義と実際 ・ 5段落—環境を守る ・ 6段落—森を育てる ・ 7段落—炭焼きの人々の心がけ	○ 課題が解決できそうな段落の読み方ができるように支援する。 読：課題に即して必要なところを選んで読み、まとめることができたか。
3 調べたことを発表する。	○ 段落ごとの要点 ・ 各自調べたことを発表する。 ・ 要点をおさえる。	○ 段落ごとの要点をまとめ、発表させる。 ○ 要点がおさえられているか、本文に立ち返らせて確認読みをさせる。
4 炭と人間のかかわりについて、図にまとめる。 ・図	○ 炭と人間のかかわり 5 6 7 日本の炭焼き技術 ・炭を作りながら、同時に森を保全する。	○ 炭と人間のかかわり方についてそれぞれの表現方法で図式化し、その違いや共通点から大事なことを読み取らせる。 読：叙述に即して読み取ることができたか。
5 本時のまとめと次時の予告	○ 表現の仕方の相互評価をする。 ・炭作りと森を育てること ・炭作りと国際交流に発展	○ それぞれの表し方のよさを相互評価させる。